

患者さんにご家族の思いを大切に ～安らぎの場をめざし～

はしもと
緩和ケア認定看護師 橋本 みさ子

緩和ケア病棟は、最期を迎えるためだけの場所ではありません。つらい症状がある時期にケアを受け、症状が落ち着いた後に自宅へ戻られる方もいらっしゃいます。

私たちは緩和ケアを“最期までその人らしく生きぬくことを支えるケア”と考えています。

そのため、緩和ケア病棟では、患者さまが“生きていること”を実感できる環境づくりを大切にしています。



緩和ケア病棟のご紹介



お城
姫路城がみえる



季節のお花テラスで
咲いています

寝たままお庭にいけます

全室個室となっており、患者さま・ご家族さまがゆっくり過ごせる環境で、**姫路城**がみえるお部屋もあります。

寝たまま入浴できます

取り組みの紹介



娘に自分の味を伝えたい。



一緒にちらし寿司を作りました

院内・院外を横断的に活動する中で、『その人らしく』を大切に患者さんと家族の思いを傾聴し寄り添う取り組みを緩和ケア病棟のスタッフと関わらせていただいています。

緩和ケアに関するご相談を多く頂いております。今後も開業医の先生方や訪問看護師、ケアマネージャー等早期に相談頂き、円滑な連携を図っていきたいと考えております。症状緩和やご家族の介護負担軽減を目的とした一時的な入院も柔軟に対応したいと思っておりますので、まずはお気軽にお電話にてご相談ください。



独立行政法人 国立病院機構 姫路医療センター
National Hospital Organization HIMEJI Medical Center
〒670-8520 兵庫県姫路市本町68番地 Tel:079-225-3211
<https://himeji.hosp.go.jp/>



WEBサイト

姫望 Vol.8 表紙説明
緩和ケア病棟
スタッフステーション前にて撮影



姫路医療センター 広報誌

KIBOU 姫望
HIMEJI Medical Center

Vol.

8

JUNE
2026

特集

緩和ケア病棟

在宅支援から緊急入院まで
地域とつながる
緩和ケア病棟
「その人らしい」療養を
チームで支援



独立行政法人 国立病院機構 姫路医療センター

National Hospital Organization HIMEJI Medical Center

特集

緩和ケア病棟

在宅支援から緊急入院まで対応する緩和ケア病棟

「**最期**まで**その人**らしく**生きる**」
ことを**チーム**で**支える**

～痛みやつらさ、答えのない
苦しみに向き合う～

緩和ケア病棟 緩和ケアセンター長

よしむら

すみひこ

吉村 純彦

苦しみの緩和から
意思決定支援、療養環境の調整まで

緩和ケアは、全人的苦痛(身体的、精神的、社会的、スピリチュアルペイン)を緩和することが目的ではありません。全人的苦痛の緩和は、あくまでも手段です。当院の緩和ケア病棟は、現在の医療で治癒が難しい病状になったとしても、「最期までその人らしく生きる」ことに寄り添い、支えることを目的としています。まずはその方がどのように病氣と向き合いたいのか、どのように暮らしたいのかを丁寧に聴かせていただきます。診断早期や治療中でも患者さんやご家族の痛みや苦しみ、心と身体をつらさを和らげます。そして患者さんご家族がその人らしく生きられるように、院内・院外の様々な方々と連携して切れ目のない支援を行っています。

具体的には、「身体的負担を掛けてでも病氣と闘うのではなく、できるだけ楽に病氣と共存したい」と患者さんが希望されれば、当科「療養支援外来」にご紹介ください。そこで緩和ケア病棟に入棟申し込みいただければ、苦痛やフレイルの進行により住み慣れた場所での生活が難しくなれば、いつでも専門的緩和治療やケアを提供します。苦しみが和らぎ、自分らしさを取り戻し、再び住み慣れた場所での療養を希望

様々な方々と連携し切れ目のない支援を行っています

されれば、訪問医・訪問看護師・ケアマネジャーなどの在宅療養支援チームと連携して、在宅療養環境の調整をお手伝いします。一方で、多くの患者さんは意思決定に迷われます。「病氣と闘いたいのか、それとも共存したいのか、どうしたらいいのかわからない」と葛藤される患者さんやご家族には、治療医と協働し“治療の意思決定支援”を行います。「身体がいうことをきかなくなったときに、どこで誰と暮らせばいいのかわからない」という場合には、ご家族の想いや事情もくみとりながら、在宅療養支援チームと連携して“療養場所の意思決定支援”を行います。「どうして私がこんな病氣に?」「どうしてこの子を残して逝かなくてはいけないのだろう」というような答えのない苦しみ(スピリチュアルペイン)をケアするのも専門的緩和ケアを提供する私たちの大切な役割です。

通院での緩和ケア、
夜間や休日の緊急入院にも対応

「苦しみの緩和」「治療や療養場所の意思決定支援」「療養環境の調整」等の専門的緩和ケアを、入院のみならず「療養支援外来」でかかりつけ医の先生方と併診しながら受けていただくことも可能です。全くの初診の患者さんでも平日の日中でしたら、できる限り緊急対応させていただきます。また、いつでも空床を確保していますので、当院緩和ケア病棟に申し込みされている患者さんなら、24時間、土日祝日も緊急入院に応じます。もちろん、何度でも入退院は可能ですし、最期の時間をこの病棟で過ごされる患者さんもいらっしゃいます。

姫路医療センター緩和ケア病棟は、夜間休日問わず、いつでも専門的緩和ケアを提供できる病棟として、地域の先生方のお役に立てればと考えています。大切な患者さんが「最期までその人らしく生きる」ことを少しでも叶えられるように、急な症状緩和やレスパイト時のお守りがわりのバックベッドとして、ぜひご活用ください。

療養支援外来 : 月～金 午前9時～午後5時

地域医療連携室 : TEL 079-225-3211

まで「療養支援外来に紹介したい患者さんがいます」とご連絡いただければ幸いです。



答えのない苦しみに向き合うのも専門的緩和ケアを提供する私たちの大切な役割です

患者さんの思いに**寄り添い**
願いを**かなえる**ために

さかきはら かつら
緩和ケア病棟 看護師長 榎原 桂

私たち緩和ケア病棟の役割は、患者さんそれぞれが「最期までその人らしく生きる」ことを支えるため、質の高いケアを提供することです。その実現に向けて、スタッフ一人ひとりの強みを活かしながら多職種で連携し、チームとして力を発揮できる環境づくりを大切にしています。日々の関わりにおいては、患者さんはもちろんご家族の不安や希望にも丁寧に耳を傾け、その方のこれまでの人生や大切にされていた価値観を共有しながら関わっています。疼痛や症状の変化には迅速に対応し、医師や多職種と連携しながら最適なケアを検討しています。

例えば、「自宅に帰りたい」と希望された患者さんに対し、ご家族が在宅療養に不安を抱えておられるケースがありました。繰り返し話し合いを重ねる中で、「短時間でも一緒に過ごしたい」という思いが共有され、症状コントロールを行いながら在宅での時間を実現することができました。

このように、身体症状の緩和だけでなく、患者さんやご家族の思いや葛藤にも寄り添いながら日々のカンファレンスを通じて情報共有を行い、多職種で統一したケアの提供に努めています。

今後も地域の医療機関と連携を深めながら、患者さんが安心して療養できる体制を整え、信頼される緩和ケア病棟であり続けたいと考えています。



Palliative Care Unit